

いばらきの花振興協議会（茨城県）

協議会構成団体： 茨城県花き園芸協会、茨城県農林水産部産地振興課、
 全国農業協同組合連合会茨城県本部園芸部、公益社団法人茨城県農林振
 興公社、一般社団法人JFTD花キュービッド茨城支部、公益社団法人日本
 フラワーデザイナー協会茨城県支部、茨城県花き卸売市場協会 他

対象品目

切り枝：ハナモモ、ヤナギ、ミズキ等
 鉢花：ほおずき
 切り花：バラ、カーネーション、小菊
 グラジオラス、アルストロメリア等



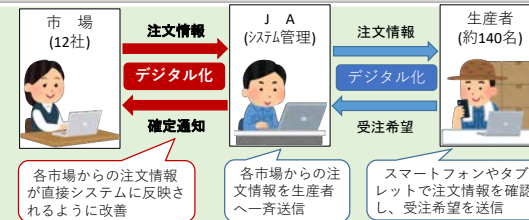
< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

枝物多品目産地における受発注システム構築
 による流通の効率化

市場、農業協同組合及び生産者間の受発注に係る情報をデジタル化することで、受発注作業に係る労力を削減することができた。また、市場からの注文対応が効率化されたことで、今後の市場からの注文増加及び市場シェア率向上が期待された。



2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

鉢花（ほおずき）生産における赤色LEDによるアザミウマ類防除効果実証試験

今回の試験では慣行区においてもアザミウマ類の被害が見られなかったため、防除効果は判然としなかったが、モスバリア区ではアザミウマ捕殺数が慣行区と比べて3～6倍に増加したことから、密度上昇を抑える効果があるものと示唆された。一方、今回のLED照射については、どちらもほおずきへの生育への影響は認められなかった。



←赤色LED
モスバリア(左)、
アグリボール
(右)

3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 全国高校生花いけバトル茨城大会2023の開催による花いけ体験及び県産花きPR
- 保育園や幼稚園の園児、小学校の児童、中学校や高校の生徒を対象とした花育体験教室の開催
- フラワーバレンタインの開催による消費喚起及び消費動向調査の実施
- 県内商業施設での県産花き展示会の開催による県産花きPR

- 県内の高等学校を中心に11校24チーム48名の高校生が参加した。また、県産花きを実況で紹介する大会の様子をネット動画で配信することで、県産花きPRを行った。
- 県内で21回、延べ563名を対象に花育体験教室を実施した結果、参加者のうちの22%が体験後に花きの購入割合が増加した。
- 消費動向調査の結果、来場者の約9割が女性で、かつ、利用目的は母の日用が19.4%、次いで自宅装飾用が16.7%で多かった（回答者324名）。
- 県内商業施設において、グラジオラスやハナモモを主体とした展示を行い、県産花きをPRした。



↑ グラジオラス県産育成品種を主体とした展示（左）
とハナモモを主体とした展示（右）

< 今後の取組予定 >

- 受発注システムを活用し、市場からの注文にスムーズに対応することで、注文数量の増加及び市場シェア率の向上を図る。
- 赤色LED照射によるアザミウマ防除効果（農業費削減率）を評価し、技術の普及を図る。
- 消費プロモーション活動を継続して実施し、県産花きの認知度向上及び消費拡大を図る。

栃木県花き振興協議会 (栃木県)

協議会構成団体：一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会、一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会花き部会、全国農業協同組合連合会栃木県本部、栃木県生花商協同組合、株式会社宇都宮花き、とちぎ花センター、栃木県農政部

対象品目

切り花：トルコギキョウ、
スプレーぎく、バラ、
カーネーション、ユリ等
鉢物：シクラメン、洋ラン等



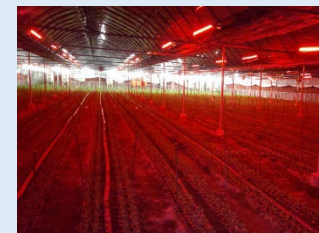
< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- トルコギキョウにおいて、夏季の短茎開花等の品質低下が問題となっていることから、9品種について品種ごとに夜間の赤色LED及び電球色LEDの補光による短茎開花抑制技術の実証を行った。

- 赤色LED及び電球色LEDの照射により、無処理との比較が実施可能であった3品種においては着蕾までの節数が平均2.1節増加し、さらにうち1品種では最も等級の高い80cm以上の出荷割合が55%増加し、農家所得向上に寄与する可能性が示唆された。
- 赤色LEDと電球色LED間の比較では着蕾までの節数や収穫時の長さに大差は見られず、その他の要素も含めた秀品率にも大差は見られなかった。



LED補光中の実証ほ場

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 生産者と実需者の連携促進のため、県内外の3市場において産地と売参人のマッチング会を実施
- マスメディア（テレビの地域ニュース番組）の活用により、季節ごとに県内で生産されている花きを紹介
- 県内で実施されるイベント等において県内産花きをPR展示。併せて消費や需要に関するアンケート調査や家庭での楽しみ方等を紹介するパンフレットを配布
- 将来的な花きの利用拡大を促進するため、未就学児～高校生を対象とした花育体験を各地で実施
- 県産花きの活用促進のため、社会福祉施設や公募型イベントにて園芸体験を開催

- マッチング会に参加した買参人からは「情報が付加価値となるので、新品種が出た際には情報をもらい、店頭での販促に活用したい」「若者に好まれるような色合いが多く出て欲しい」など、県内産地への要望が寄せられた。マッチング会にて産地の状況や品質の高さが周知されたことにより、昨年同時期と比べた予約相対での注文増加や、翌月の単価が好調となる傾向が4つの品目で見られるなどの効果がみられた。
- テレビ番組のスタジオに県産花きを計36回飾り、番組内で花の名前、特徴、産地、飾り方等を紹介しPRを行った。
- とちぎ花センター、住宅展示場、県庁でのイベント等にて県産花きの展示を実施。アンケート調査では年代ごとの花きの購入頻度や購入時に重視する点等の消費動向をつかむことができた。
- 計6846人の子どもたちが花育体験を行い、参加した子どもたちの保護者への追跡アンケートによると、21%の家庭で体験後の花き購入回数又は購入数量が増加した。



花センターでの展示



花育での寄せ植え体験

< 今後の取組予定 >

- 県内産地の鉢物について、輸送時間の短縮及び労力削減効果の実証を行う。
- 県産花きの家庭における利用拡大に向けて、市場取引データ等を活用した需要動向調査や、体験型イベントによる飾花定着に向けた理解促進を図る。
- スプレーマムUV-B照射による白さび病抑制技術の実証を行う。

群馬県花き振興地域協議会（群馬県）

協議会構成団体：群馬県園芸協会、全国農業協同組合連合会群馬県支部、群馬県中央園芸株式会社、群馬県生花商業協同組合、群馬県農政部蚕糸園芸課

対象品目

切り花：キク類、ラン類、バラ、トルコギキョウ、宿根草、アジサイ
枝物類各種
鉢花類：シクラメン、アジサイ、カーネーション等



キク類



シクラメン

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- ・コロナ禍で業務需要の縮小による影響を受けたキク類やラン類等11品目を対象として、都中央卸売市場の市況取引データを分析する県産花き需要調査を行った。

- ・本調査により、当県産の花き11品目に対して、品質の高さ、出荷量の安定性や品種多様性等に関する弱みや強み、市場内での位置づけが明らかになった。今後の戦略形成に役立てたい。
- ・調査結果を冊子にし産地関係者に配布、講演会（2月）で周知した。



講演会の様子

2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ・キクの重要病害白さび病に対し、減化学農薬防除として苗の温湯浸漬処理技術を検討した。
- ・スプレーギク親株で難防除害虫ハダニとアザミウマに対し天敵防除を検討した。
- ・キクの白さび病に対し、紫外線照射による発病抑制を実証した。
- ・バラの灰色カビ病、うどんこ病に対し、省力・減化学農薬として生物農薬及び自動散布機を検討した。

- ・温湯消毒でキク苗に高温障害を出さずに効果を上げる条件（予備加温→45℃1分→冷水処理）を検証し、マニュアル化した。
- ・スプレーギク親株の天敵防除試験では、放飼のタイミングが合わず今回はコストが増加した。害虫の世代交代の早い高温期を除けば導入の可能性が見いだせた。
- ・紫外線夜間照射（殺菌剤散布なし）と対照区（殺菌剤散布あり）、どちらも白さび病が発生しなかった。また紫外線灯から植物までの適切な照射距離（80～220cm）を導くことができた。
- ・生物農薬と自動散布機を活用し灰色カビ病が抑制できた。しかしうどんこ病は、秋季の曇雨天の多い環境条件では制御が困難であり、化学農薬の削減に至らなかった。



キク穂温湯消毒の様子

3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・シクラメンで産地情報発信、切り花アジサイと宿根草類で目揃え会や市場でのサンプル展示を行い、規格の確認やマッチングを行った。
- ・県産花き（シクラメン、各種切り花、花壇苗）を公共の場で展示やアレンジ教室を行い、一般消費者に向けた普及啓発活動を行った。
- ・高校生を対象に、ぐんまフラワーパークにおいて県産バラを用いたフラワーアレンジ大会を開催した。

- ・実需者向け産地情報発信、目揃え会や市場展示により、需要と供給のマッチングを促進し新規商談（2件）につなげることができた。
- ・消費者向け展示（3回）やアレンジ教室（10名）、寄せ植え教室（18名）ではアンケート調査を行った。展示や体験内容に関して回答者の85%以上が満足と答え、県産花き産地の認知度向上につながった。
- ・高校生大会では6校から33人が参加し観客に向けてフラワーアレンジ作品のポイントをスピーチし、約1,000人の観客が県産バラを用いた作品を鑑賞した。アンケート調査による満足度も93%と高く、さらに新聞報道2社もあり、県産バラの魅力発信につながった。



県産バラを用いた高校生の優勝作品

< 今後の取組予定 >

- ・需要調査の結果を受けて、今後も需要動向が厳しい場合には、品目転換も含めて産地に働きかけ作付検討のフォローに努める。
- ・今回実証した温湯消毒や防虫灯、天敵防除といった減農薬につながる資材や技術については、試験を継続してさらに適した条件を探るとともに現場で普及活動を実施していく。

さいたまの花普及促進協議会（埼玉県）

協議会構成団体：埼玉県、埼玉県花き園芸組合連合会、埼玉県植木生産組合連合会、全国農業協同組合連合会埼玉県本部、埼玉県花き園芸市場協会、埼玉県生花商組合連合会、（公社）日本フラワーデザイナー協会埼玉県支部、埼玉県インドアグリーン協会、（一社）日本ハンギングバスケット協会埼玉支部、埼玉県いけばな連合会、花キューピット埼玉支部

対象品目

切花：ユリ、バラ、
チューリップ等
鉢花：洋ラン、シクラメン、
ポインセチア等
苗物：プリムラ、パンジー等



< 取組内容 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

・オリエンタル系ユリの品質向上を図るため、トマトやキュウリ、バラなどで収量の増加や高品質化が実証されている炭酸ガス施用を実施した。

・宿根アリッサムの夏期の挿し木育苗の生産安定を図るため、ヒートポンプ冷房とミストを活用した育苗方法が高温期の育苗で効果を発揮するか実証を行った。

・地球環境のことを考えるうえで、脱プラスチックを図るため、もみ殻を原料とした鉢を用いて3か月以上となる栽培期間の対候性、薬剤性の調査を実施した。

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

・普段花きを利用しない消費者に対して県産花きのPRを行うため、埼玉県警開催のイベント「被害者の集い」において、会場内でのフォトスポットの作成や舞台の装飾を行った。

・家庭内の花き購入額の増加に向けて小学生や幼稚園等の児童を対象に、生産者が講師となり県内花きの生育状況を説明しながら花育教室を実施した。

< 取組の成果 >

・実証により冬の栽培において炭酸ガス施用技術を確立し、従来と比較して草丈が約3～4cm、切花重が約20g増加した高品質といわれるボリュームのある花の大きい切り花になることが確認できた。

・ヒートポンプ冷房とミストを活用した育苗では、成苗率が50%であった。さらにプラグ内の温度を下げるために、スリムホワイト90のカーテンで仕切りを作り、冷風がベンチ下に流れるようにすることで、成苗率が80%まで上昇することが確認できた。

・実証により、有色の鉢には日焼けによる白化が見られたが、かん水や風雨、殺菌剤等による栽培期間中の破損はなかった。生育は既存のプラスチック鉢と変わらないことが確認できた。この結果から今後廃プラスチック削減に向けてもみ殻原料鉢への切替を進めていく。

・当日の来場者に行ったアンケート調査により、埼玉県が花の産地であることを知らなかった方が約53%、会場の装飾を見て花を購入してみたいと思った方は89%となり、普段花きを利用しない消費者に県産花きの魅力をPRできた。

・合計38校、2,215名に対して花育教室を行い、アンケート調査により花育教室後の花き購入回数が増加したことが確認できた。



ヒートポンプとミスト、仕切りを利用した冷却の様子



県警イベントでの花き展示

< 今後の取組予定 >

- ・翌年度は花き流通の効率化等について、本県花き流通の問題点の把握と課題解決のための検討を行う。
- ・県産花きの消費拡大の推進を図るため、一般消費者に対する花束・生け花等消費モデルの展示を行う。
- ・今後の温暖化に対応していくための技術実証事業や、環境に配慮した栽培方法についての実証事業を実施していく。

花植木類利用拡大推進ネットワーク（埼玉県）

協議会構成団体：（一社）日本植木協会埼玉県支部、（一社）日本盆栽協会川口支部、（一社）川口市造園業協会、埼玉南部花卉生産組合、川口園芸商協同組合、川口市都市緑化植木生産組合、川口農業ブランド推進協議会、埼玉県花と緑の振興センター、（株）安行植物取引所

対象品目
植木全般
盆栽全般



< 取組内容 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- 埼玉県が特許を取得した新資材（組立式の植木植栽容器）について、その有用性を検討した。
- 植木類のエンドユーザーが緑化に関心を持ち、緑の増進、利用拡大を進めていくには、誰もが軽易に取り組めるハンドリングに優れたアイテムの開発、供給は有効である。そこで、組立てから植木の植栽を実施し、使いやすさや植物の生長過程を調査することによりその資材の利点、改良すべき点等の抽出を行った。
- 特許の概要
発明の名称 仕切り及びケース並びに植木植栽容器
番号 特許第6638910号
特許権者 埼玉県
- 実証は、構成員内の植木生産者、埼玉県花と緑の振興センターが協力して行っている。

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 埼玉高速鉄道（地下鉄南北線、東急目黒線直通路線）と連携し全7駅で植木やポスターの展示、車輦内への掲示を植木の需要期（2月～3月）に4週間にわたり実施した。
- 最も乗降客が多い東川口駅では盆栽の展示を行った。
- 年末に小中高世代（15人）を対象としてうめ盆栽を中心とした寄せ植え教室を行い、将来にわたり県産植木や盆栽の利用してもらえよう啓発した。

< 取組の成果 >

- 現在の資材は、9の特許に係る項目（請求項）により構成されているが、これらを一体として使用することにより、エンドユーザーが手軽に緑化を進めるのに有効と考えられた。
- 一方で、底板の製作に手間を要するといった意見もあり、これを解決することが普及拡大にとって重要なことと思われた。
- 植物の生長に関しては、今後の推移をみていく必要があるが、生育の初期段階では排水性、通気性による促進及びそれ以降では生育の抑制方向に働くという特徴を長所として管理することが必要と思われた。
- この資材を植木に使用していく場合、その期間が年単位の長期に渡ることから、耐久性（使用に耐え得る期間や強度）については、未知であるので、引き続き調査を実施していく必要がある。



実証展示状況

- 推定で延べ160万人強に対して、この地域の植木生産の状況や利用拡大を働き掛けることができた。
- うめ盆栽を中心とした寄せ植え体験では、埼玉県が花植木の有力な産地であることを初めて知ったとした人が1/4あり、今後積極的に利用していくとした人が2/3あった。



車輦内ポスター掲示

< 今後の取組予定 >

- 翌年度は植木植栽容器について、植物の生長過程等の調査を行っていくとともに、エンドユーザーの利用に向けて引き続き啓発していく。（実施許諾に関してはいつでも対応できる体制を構築済み。また、公開のタイミングを検討中。）
- 植木や盆栽の利用拡大に向けては、各種の機会を有効に活用し、実需を重視して啓発、意向把握を実施していく。

千葉県花き振興地域協議会（千葉県）

協議会構成団体：（公社）千葉県園芸協会、千葉県花き園芸組合連合会、
千葉県植木生産組合連合会、全国農業協同組合連合会千葉県本部、
（株）第一花き柏支社、（一社）JFTD千葉支部、千葉県茶華道協会、千葉県

対象品目

- ・植木 イヌマキ
- ・花き 施設花き、露地花き
鉢花



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

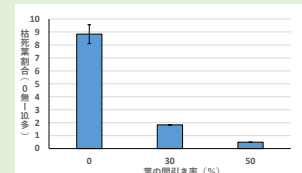
1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- ・ イヌマキの根洗いによる輸出先国検疫条件への適合と植え付け後の活着促進のための技術実証
細根量が少ない樹では良好な活着が見込めないことが明らかとなっている。そこで、低コスト資材施用による発根促進技術について検証した。
また、生産者への根洗い技術の定着を図るため、葉の間引き処理の省力化の効果について検証した。

- ・ 液体核酸・アミノ酸肥料、豚糞堆肥の施肥によって発根数が増えることが明らかになった。
- ・ 根洗い後の葉の間引き率を50%から30%に省力化しても、定植後の葉の枯死の割合を抑えられることがわかった。

肥料の種類	葉の緑度 (1:薄-8:濃)		萌芽割合 (0:無-10:多)	根量 (0:無-10:多)
	7月8日	12月7日	12月7日	2月1、16日
液体化成	6.8	5.7	0.1	0.5
液体核酸・7%/酸	6.7	6.8	0.1	2.6
普通化成	6.7	6.3	0.2	1.9
有機配合	6.7	6.2	0.2	2.1
豚糞堆肥	6.7	6.7	0.2	2.8
無処理	6.7	4.5	0.1	1.1

表1
根洗い
前の施
肥と生育



土壌除去の根洗い

図1 根洗い後の葉の間引き率と枯死葉割合

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・ 学校・福祉施設等での花育体験推進
小学校、中学校、高等学校等を対象に、花に触れる機会を通じて県産花きに対する興味や理解を深め、花のある暮らしの定着と「豊かな心」を育むことを目的に花育体験教室を開催した。
また、体験時、生産者等から県内の花きの生産について紹介を行った。
- ・ 県産の花植木を使った日本庭園及び生け花展示
国内外に花植木の魅力を広く伝えるため、県産植木と伝統樹芸による日本庭園、伝統文化である生け花を展示した。

- ・ 参加校：のべ46校
(小学校32、中学校1、高校13)
- ・ 花育体験を実施した小学校の保護者向けアンケート結果によると、7割以上の児童（家庭）で花きの購入を行っていることがわかった。
- ・ 日本の空の玄関である「成田」において植木展示をすることで幅広い利用者にPRができた。
(日本語、英語、中国語の3か国語で案内表示)
- ・ 千葉市内の商業施設で生け花の展示を行うことで、早春の千葉の花のPRを行った。
- ・ 会場で行ったアンケート回答者の90%が日本庭園について理解が深まったと感じ、95%が花を身近に飾りたいと思ったと回答した。



花育体験教室



日本庭園



生け花

< 今後の取組予定 >

- ・ 輸出対策技術のさらなる発展を図るため、低コスト省力化・品質安定のための根洗い技術実証試験を行う。
- ・ 花きの需要拡大に向けた取組として、若い世代への花への関心を高める花育活動等を進める。

神奈川県花き・植木振興地域協議会（神奈川県）

協議会構成団体：（一社）神奈川県園芸協会、神奈川県花き園芸組合連合会、神奈川県植木生産組合連合会、神奈川県花き卸売市場連合会、神奈川県生花小売商協同組合、日本ガーデンセンター共同機構神奈川県支部、（一社）日本ハンギングバスケット協会神奈川県支部、神奈川県（農業振興課、農業技術センター）

対象品目

切り花：スイートピー、バラ、カーネーション、マム類等
鉢物類：シクラメン等
花壇用苗もの類：パンジー、ニチニチソウ等
花木類：観賞用植木（サルスベリ、ハナモモ、ヤブノキ、ブルーベリー等）



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

・花壇苗生産において、ポット苗入りのトレイの運搬作業は高頻度で行われるが、圃場内通路は必ずしも整地、舗装されておらず、傾斜地であることも多く労働負担が大きい。

そこで、既存一輪車を電動化する装置を利用した運搬作業の労力軽減を実証するための基礎資料として心拍数による作業強度の変化を計測した。

・一輪車の電動化により、運搬作業の作業強度が圃場内の平坦地（未舗装）では約11%、舗装された傾斜地では約9%低下した。

・舗装された傾斜地や未舗装の平坦地では、一輪車を押しながら歩行することに大きな負荷がかかるが、一輪車を電動化することで、小さい労力で歩行が可能となり、負荷軽減につながった。



装置の取り付け方に関する講習会



電動化した一輪車を使用する様子

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

・若年層に対して、県産花きのPRと利用促進を図るため、県内の成人式会場で、県産花きを使用したフォトスポットを設置した。

・小学生を対象に、県産植木を用いた緑育体験を実施した。

・展示を見た人にアンケート調査を実施した結果、展示を通じて今後生活に花を取り入れたいと回答した人が100%となり、県産花きの利用促進を図ることができた（回答数：96人）。

・保護者に追跡アンケート調査を体験後1～2か月後に実施した結果、子供が花や緑に興味を示すようになった、と回答した人が85%だった。また、体験後に花きや植木の購入頻度が増加した家庭が62%となり、花きや植木の消費拡大につながった（回答数：34人）。



成人式会場に設置したフォトスポット

< 今後の取組予定 >

- ・一輪車の電動化による運搬作業の省力化について、新たに植木でも調査を行い、同様の効果が見込めるかを確認する。
- ・多くの人の往来が見込まれる場所での展示や、子供や保護者、社会人を対象とした体験イベントを行い、県産花きのPRと消費拡大を図る。

山梨県花き振興協議会（山梨県）

協議会構成団体：山梨県花き園芸組合連合会、富士北麓花き生産協議会、全国農業協同組合連合会山梨県本部、山梨県園芸市場、山梨県生花商業協同組合、日本フラワーデザイナー協会山梨県本部、(株)ハイジの村、山梨県総合農業技術センター、山梨県食糧花き水産課、山梨県販売・輸出支援課

対象品目

切り花：ダリア、バラ
飾花用苗（ビオラ、ガーデンシクラメン等）
県産花き全般（洋ラン、シクラメン等）



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ・切り花（ダリア）について、通常のハウスと比較して導入コストの低減を図るため、野菜用に開発された大型トンネルを応用した栽培体系の実証を行った。
- ・大型トンネル栽培は低コストで安定生産可能な栽培方法として、山梨県総合農業技術センターにおいて開発された技術で、ビニールハウスと比較して約60%のコスト軽減が可能。

- ・実証の結果、露地栽培の採花期間（9月～10月）と比較して、大型トンネル栽培では9月～11月と約30日延長でき、夏秋期の行楽シーズンを通じた長期出荷が可能であった。
- ・品質については、ビニールハウス栽培と比較してうどんこ病の発生が少なく、花痛みの発生はビニールハウスと遜色なかった。
- ・大型トンネル栽培の実証を行ったことにより、富士北麓地域における新規切り花品目として、ダリアの普及が期待される。



ダリアの大型トンネル栽培

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- ・将来の実需者となりうる小中学生に花と親しんでもらうとともに、家庭内での花き消費拡大につなげるため、花育体験教室を実施した。（県内8校、10～11月）
- ・県産花きの知名度向上に向け、「やまなし花フェスタ2022」において県産花きを使用したフラワーオブジェを設置した。また、県立フラワーセンターにおいて、品評会の受賞花等を展示し、地元で生産される高品質な花のPRを行った。

- ・小中学校8校の計318名の児童が花育体験教室に参加した。参加した児童の保護者を対象に行ったアンケート調査の結果、花育体験後、保護者全体の花き購入頻度は33%（月0.9回→1.2回）、購入金額は36%（平均737円→1,001円）の増加となった。
- ・やまなし花フェスタ2022を開催し、日常と自然が一体となったフラワーオブジェの設置により、花のある日常の提案を図った。オブジェには県産花き10品目計20品種以上を使用した。
- ・県産花き展示では、品評会最高賞を受賞した花など計27点を展示し、期間中約1万4千人が来場した。



やまなし花フェスタ2022

< 今後の取組予定 >

- ・大型トンネルで栽培可能な切り花品目および適用地域の拡大に向け、実証を継続するとともに、研修会等を通して生産者への普及を図る。
- ・県内の花き消費額の増加に向けて、より高い効果が見込まれる形式での花育体験教室を実施する。

長野県花きイノベーション推進協議会（長野県）

協議会構成団体：長野県農政部、全国農業協同組合連合会長野県本部、南信ハウスカーネーション組合、長野県鉢花園芸組合、日本ばら切花協会長野県支部、長野県洋らん組合、長野県生花商業協同組合、長野県原種センター、松本花市場

対象品目

切り花：カーネーション、トルコギキョウ



< 取組内容 >

2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

・カーネーションにおける夏秋期の品質向上（切り花重や花蕾数の増加等）の改善を図るため、夏期高温下となるハウス内に細霧冷房装置を設置し、その効果を検証した。

・トルコギキョウの冬季定植季咲き作型において、活着不良や生育遅延を改善するために、電熱線を活用した地中加温試験を行った。

< 取組の成果 >

・ハウス内気温は、細霧冷房装置の設置により、対照区と比べ、最大4℃低下することが認められた。切花重、花蕾数は試験区で品質向上が認められた。施設内温度の低下による品質向上に伴い、廃花が2割減少した場合、細霧冷房の設置費用の償却は4年と試算された。

・令和5年1月30日定植で、2月1日から3か月程度15℃～18℃に加温した。定植後1か月後の活着は良好となった。生育量は加温区で11～14%大きくなった。また、平均出蕾日は3日、平均切花日は2日早くなった。



細霧冷房中の実証ほ

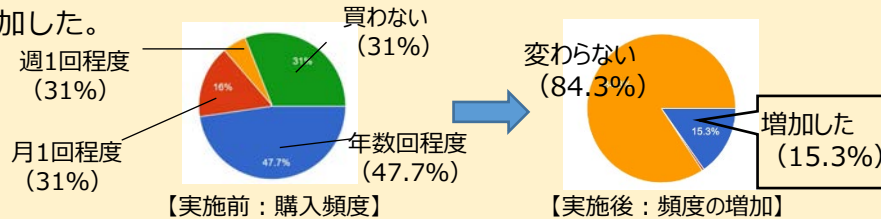
3 花きの消費拡大・利用定着の取組

・県内一般消費者に対して、県産花きの魅力を発信し、「花のある暮らし」の定着を図るため、生花商によるデザインコンテスト、フラワーデザイナー協会による展示を長野駅で実施した。

・県内主要駅（長野駅、松本駅）における継続的な旬の県産花きの展示、善光寺御開帳に合わせた「善光寺花回廊」、県立大学卒業式における「花贈りキャンペーン」を実施した。

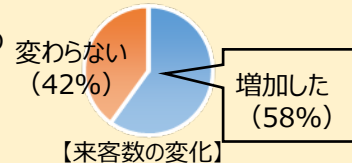
・若年層の新規需要の創出を目指し、小中学生を対象に県産花きを用いた花育教室を開催した。

・善光寺花回廊では延べ6万人が来場した。
・県内の小中学校35校、4,654名の児童が花育体験を行った。参加した児童へのアンケート結果によると、15%の家庭で切り花の購入頻度が増加した。



善光寺花回廊

・花育教室や花きのPR展示を実施した会場の近隣の店舗へのアンケートによると、事業実施後、58%の店舗で来客数、40%の店舗で売り上げが増加した。



小学校における花育教室

< 今後の取組予定 >

・令和5年度はカーネーションの暑熱対策試験に関して、高温期の初期段階から細霧冷房装置を稼働させ、冷房効果を確認する。
・「花のある暮らし」の推進のため、小中学校での花育教室の開催に加え、社会人を対象としたセミナーも開催する。

ふじのくに花の都しずおか推進協議会（静岡県）

協議会構成団体：

静岡県花卉園芸組合連合会、静岡県鉢物生産振興会、静岡県農業経営士協会花き部会、静岡県青年農業士会花き部会、静岡県花き市場連合会、花咲くしずおかフラワーネットワーク会議、静岡県花の会連合会、静岡県華道連盟、静岡県

対象品目

切り花：ガーベラ、バラ等
鉢物：観葉植物、花苗等



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- 日照量の少ない冬季におけるガーベラの切り花品質向上を目的に、10月～2月の赤色LEDの夜間照射が切り花に与える品質向上効果等を調査した。
- 強日射期における施設内の温度上昇を抑えるため、バラハウスでの遮光剤及び遮熱剤の塗布試験を実施し、施設内の温度上昇抑制効果やバラ切り花の収量および品質への効果を調査した。
- 日照量の少ない冬季におけるバラ切り花の収量増加や品質向上を目的に、11月～3月に赤や白を中心としたLEDを設置し、日没6時間後からの18時間照射が切り花収量等に与える効果を調査した。

- 夜間のLED照射により、無照射と比較してガーベラ切り花の規格外品の発生率が10.6%減少し、上位階級（切り花長40cm以上）の発生率が28.6%増加した。
- 塗布剤散布により、無処理と比較して日中の施設内温度が1.5～2℃低下し作業性が向上した。また、バラ採花本数が40%増加した。
- 1日18時間のLED照射により、無照射と比較してバラの採花本数が27～35%増加し、上位階級（切り花長70cm以上）の発生率が67%増加した。
- 実証成果についてセミナーの開催、マニュアル作成により県内花き生産者に広く公開し、技術の普及を図った。



ガーベラ夜間赤色LED照射実証

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 小学生を対象にした、県産花きを用いた寄せ植えによる花育体験教室を実施し、花きに親しむ習慣の定着化と消費拡大を図った。
- 生産者と消費者との連携を深めるために、花の会会員を対象に花き生産ほ場の視察・意見交換を行った。
- 県産花きの新たな販路拡大のために、シンガポールにおける展示・マーケット調査を実施した。

- 生産者が講師となり、児童32名に対して花育体験教室を開催した。実施1ヶ月後に行ったアンケート調査では、参加した児童の家庭において、約2割が昨年同月よりも花きの購入量が増えたと回答した。
- 参加者からは、栽培管理の深い知識が得られ勉強になったという感想や、生産者の情熱に感動したという声が寄せられた。
- 県産花き12品目29品種を輸出し、展示・マーケット調査を実施し、シンガポールにおける県産花きの需要動向の把握や有望品種の選定を行った。コデマリなど他国産に比べて品質の優れている品目や、日本で育成された珍しい品種に需要があった。



花育講座の様子

< 今後の取組予定 >

- バラでは、春季からの遮熱剤散布による増収・品質向上の効果期間の延長、冬季のLED照射による切り花品質向上・増収効果の低コスト化を検証する。
- ガーベラでは、自動遮光制御システムを用いた遮光管理による花茎曲がり抑制効果を調査する。ビジュームでは赤色LED照射による出荷の前進効果を調査する。
- 児童を対象とした花育の実施、消費者を対象とした講習会や生産ほ場の視察に取組み、県産花きの需要拡大を図る。